

## 12 公開特許公報 (A)

昭56-29209

51 Int. Cl.<sup>3</sup>

G 02 C 5 00

11 00

識別記号

序内整理番号

7174-211

7174-211

43 公開 昭和56年(1981)3月24日

発明の数 1

審査請求 未請求

(全 3 頁)

54 眼 鏡

東京都杉並区永福3丁目37番12号

21 特 願 昭54-104088

71 出 願 人 一色宏

22 出 願 昭54(1979)8月17日

東京都港区三田4丁目3番15号

72 発 明 者 一色宏

71 出 願 人 斉藤周作

東京都港区三田4丁目3番15号

横浜市戸塚区小雀町507番地

72 発 明 者 斉藤周作

71 出 願 人 満尾浩治

横浜市戸塚区小雀町507番地

東京都杉並区永福3丁目37番12号

72 発 明 者 満尾浩治

No. 1

明 細 書

## 1. 発明の名称

眼鏡

## 2. 特許請求の範囲

レンズを除く柄部、枠部またはその両方に、  
珪素及び微細な放射能を有するウラン・ニオブ  
またはトリウムを等の放射能物質を設けた  
ことを特徴とする眼鏡。

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は、レンズを除く柄部、枠部またはその  
両方に、珪素及び微細な放射能を有するウラ  
ン・ニオブまたはトリウムを等の放射能物質  
を設けたことを特徴とする眼鏡に関する。

珪素は体液をイオン化して運動エネルギーの  
一部を電気エネルギーに変え、血行を良くする  
と共に血液をアルカリ性化する作用があること  
が知られている。これは珪素内に存在する珪素イオン  
の代謝作用によるものと考えられるが、珪素内  
に存在する珪素イオンは代謝作用のエネルギーを消費し  
てその補給には限界がある。また放射能物質は

No. 2

物質のイオン化作用で過量の微細な放射能を  
有する放射能物質は細胞の新陳代謝を阻害する  
ため、神経系や電子配列に変化を及ぼすため、  
放射能作用を有することになり、放射  
能物質の外用は人体に危害を及ぼし、より微細  
な放射能物質に人体に害を及ぼすことよりも、  
健康上に危害をもたらす健康害の発生が望  
まれている。

本発明は、複数の珪素を、放射能物質が  
自由に引き合い、あるいは反響する状態で固定し、  
その中間に放射能物質を固定すれば、代謝作用に  
より消費される珪素イオンが放射能物質によ  
り補充され、珪素と放射能物質の作用が  
相乗して活性イオンの活動を加速するものと  
し、このため放射能物質を利用した従来の健康害制  
に比し、放射能放射能物質を効果的に利用するだけ  
で人体に危害を及ぼすことなく健康を維持する  
ことを見出し、これを眼鏡の柄や枠に使用すべ  
し、人体の組織内の停滞した老廃物を溶解し、  
血液を活性化することによりのみならず、神経

本8種材料は特許に於いて、(1) 放射性物質を  
放射に効率的なことに含む1つに於いてある。

第1図乃至第4図は、概して破石2と放射性物質3とを交互に並置した状態1例を示し、4はこれより、5は特である。第2図は相対する破石2・2が引き合ふ状態に固定される時の破石2と放射性物質3の配列例を示し、第3図は相対する破石2・2が互視し合ふ状態に固定される時の破石2と放射性物質3の配列例を示す。即ち第1図の配列の概略には第2図または第3図の配列法で破石2と放射性物質3が固定されてあり、相対する上記配列の破石2と放射性物質3が固定されておいてはさうまで厚い。また第4図に示されるように、概して破石2と放射性物質3を連続して交互に配列固定してある。

第5図は、成りたる概1の概に破石2または放射性物質3を並置して置く並置法1例を示し、第6図は合成樹脂製概1の製造時、原料に粉破石2'または粉放射性物質3'の何れかを混

合して硬化させ、粉破石2'が混合されている時は放射性物質3'を、また粉放射性物質3'が混合されている時は破石2'を、内側に於ける概1に並置した概1例を示す。尚第7図に示されるように、概1の製造時原料に粉破石2'と粉放射性物質3'とを混合しておいて硬化させてもよい。第8図は粉破石2'がまたは粉放射性物質3'の何れかを概1の製造時原料に混合するに至り、放射性物質3'がまたは破石2'をその中に埋設して硬化させて概1例を示す。第9図は概1の内側に凹部を設けてあり、破石2と放射性物質3とを交互に埋設固定してある概1例を示し、第4図の概の破石2と放射性物質3の固定に通じている。第4図に示ける6は並置固定法である。第5図・第6図及び第9図に於ける破石2'及び放射性物質3'は概1の製造時原料に原料を硬化させて固定してある。第10図は概1の破石2'と粉放射性物質3'を混合してつくつた合成樹脂板7を概1に接着剤を利用するが加熱接着する等して固定したものを示し、概1

465

は原料に粉放射性物質3'を混合してあり、破石2'を所定の位置に配列して硬化させたその原料に粉破石2'を混合してあり放射性物質3'を所定の位置に配列して硬化させたものに代えることができる。尚概1に破石を埋設しておくが破石を埋設しておけば、原料に粉放射性物質3'を混合してあり破石2'を所定の位置に配列して硬化させたその概1に、これを概1に並置自在に並置することができる。第11図は、粉破石2'及び粉放射性物質3'を原料に混合してあり、内側に凹部を設ける等して至る1つに於ては、全長概1を埋設する凹部を形成して硬化させた概1の上部凹部に全長概1を挿入し、挿入する概1を凹部に並置したものを示し、既述の並置法に概1に概1を並置自在に並置することができる。尚概1も概1同様破石2'または放射性物質3'を所定の位置に配列した原料に粉放射性物質3'または粉破石2'を混合しておいて硬化させておいてもよいことにはさうまでない。

466

以上破石と放射性物質の固定法に就て種々説明したが、要旨を要するに、概1内での概1の固定法を利用することができ、

本発明は詳細の如くに構成され、既述に放射性物質3'が概1と破石2'を設けることにより、既述をかける人間の操作代術を旺盛にして、概1に並置自在に置くことができる。概1の並置の他に車動等による移動も亦ある。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図乃至第10図は本発明の實施例を示すものであつて、第1図は既述1例の斜視図、第2図及び第3図は破石と放射性物質の配列2例を示す図、第4図は既述の概1例の側面図、第5図〜第11図は既述の概1例の断面図である。

特許出願人

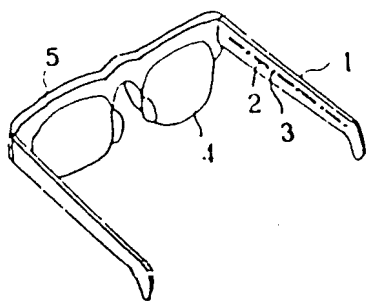
一色 宏

百原 國作

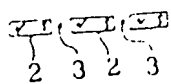
高尾 三治



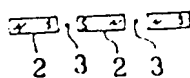
第1圖



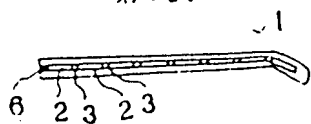
第2圖



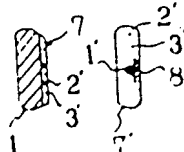
第3圖



第4圖



第10圖 第11圖



第5圖

第6圖

第7圖

第8圖

第9圖

